

六割の壁

米国で白人の割合が全体の 60%を下回った。初めてのことで。白人の子供は 47%に低下した。米国社会で白人優位の構造に陰りが出て一層多人種社会へ向かうことが 10 年に一度の国勢調査で確認された。白人の次はヒスパニックで 20%弱を占める。

この割合を見て思い浮かんだのは世界の外貨準備の通貨構成だ。ドルの割合は昨年末に初めて 60%を切った。ドルの次はユーロで 20%強を占める。ドルの割合も白人と同様長期低減傾向であり、今後一層低下が予想される。

ただ方向性は確かだが、白人もドルもその支配的地位は米国社会でも世界の金融市場でもすぐに崩れそうにはない。ドルについていえば 5 割を切る見通しが広がる頃には市場でもドル売りの大きなうねりと国際金融システムでも多極通貨体制などの具体的なプランが議論される可能性がある。SDR、金、デジタル通貨の役割も見直されるだろう。

こうした中長期的な見方から離れて足元を見れば、コロナウイルスは変異型の流行で市場の強力な変動要因にもなっている。

ニュージーランドでは首相が 3 日間のロックダウンを宣言した。外国では対応が遅くなり悲惨な状況に陥った例があるので早めの対応を心掛けたと説明した。日本の菅首相の対応とは対照的だ。

この宣言でニュージーランドドル(キューイ)は対米ドルで昨日一時 0.6900 前後に急落した。その後戻したが、今日は中央銀行が政策金利の据え置きを発表(0.25%)したことで 0.6870 近辺まで下落した。その後戻して直近では 0.6930 近辺で推移している。今日はニュージーランド中銀の利上げ期待が高かったが昨日の首相のロックダウン宣言により利上げが先延ばしされたと考えられる。

キューイの今後だが、ロックダウンが短期間で解除されるようなら、政策金利も次回の会合で引き上げられる可能性があるので堅調に推移すると思われる。